

南河内地区公立小中学校教頭会の研修会にてヤンマー・中路氏が講演

当協議会は、南河内地区公立小中学校教頭会からの要請を受け、2月21日(木)午後、富田林市市民会館にて開催された同教頭会の研修会で情熱教室(出前授業)を行った。研修会には教頭会(小学校81校、中学校37校)に所属する教頭87名が参加した。

冒頭、教頭会(中学校部)の谷口省三会長は、挨拶の中で、講師紹介・講演テーマについての趣旨説明やご依頼の経緯について説明した。

その後、ヤンマー(株)取締役 中路秀宏氏が「企業における人材育成とコミュニケーション」をテーマに講演した。中路氏の勤務するヤンマー(株)の概要について紹介いただいた後、ヤンマーミッション、ヤンマーの人事制度、教育現場と民間の違い、ヤンマーでの取り組み、管理職に求められること、諸外国との比較という観点から「人材育成」にフォーカスしてお話しいただいた。出席者は、ヤンマーの『ヤンマードリカム制度』や『コース転換制度』・『異動に関する自己申告制度』は、さすが企業ならではの弾力的かつ実効性ある人材育成制度であると感じ入り、可能ならば学校現場に取り入れられるよう工夫を加味するに値する内容であったと感嘆。ヤンマーで行われている育成面談は、教育現場でもすでに導入されており、定着しつつある。その意味で、中路氏の講演の中でのキーワードの一つ、つまり「大切なのは日常のコミュニケーションの中での『心の信頼関係』」には、思わず頷く出席者も多く、民間と教育現場の違いの壁を感じることなく理解できた。

また、民間と学校現場との違いについても、まずその組織を単純化して図示され、採用活動・入社後研修・人材育成体系・リスクへの対応の四点からアプローチしていただき、容易に理解が深まった。その上、ご令嬢が教員をなされているとのことから、端々にそれを踏まえながらの話題を取り上げて説明されたので、ピントのぶれない話をより親近感をもって傾聴することができた。

さらに、育成する立場である管理職についてお話をいただき、P.F.ドラッカーの著書を引き合いに出しながら、管理職に求められる資質について語っていただいた。その中では、特に「ミドルアップ・ダウン」という言葉が印象的であった。

最後に、一昨年、関西生産性本部の「訪欧労使トップミッション」で訪問された北欧3カ国の経験から、ドイツの「デュアルシステム」「スウェーデンのダイバーシティ」を紹介され、講演を終わられた。出席者からの質問にも丁寧に回答いただき、参加した教頭全員にとって非常に有意義な研修会となった。

